

## 第8節 動物

### 1. 調査

#### 1.1. 調査する情報

動物の調査する項目は、以下に示す4項目とした。

- ① 動物（哺乳類、鳥類、両生類・は虫類、魚類、底生動物、陸生貝類、昆虫類等）に係る動物相の状況
- ② 希少猛禽類の生息状況及び繁殖利用状況
- ③ 動物の重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況
- ④ 注目すべき生息地の分布、並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息の状況及び生息環境の概要

#### 1.2. 調査手法

文献その他の資料及び現地調査による情報の収集・整理・解析により、調査した。現地調査は、次の手法により行った。

表 5.8.1-1 (1) 現地調査手法

項目	調査手法
哺乳類	<p>現地踏査法 調査地域内を踏査し、生体の視認及び足跡、糞、食痕、営巣の跡、死骸等の生活跡の確認による生息種の把握を行った。</p> <p>トラップ法 ネズミ類などの小型哺乳類を対象に、餌を入れた箱型生け捕りトラップ（シヤーマントラップ）を設置し翌々日に回収し個体の捕獲を行った。</p> <p>夜間踏査法 夜間に調査地域内を踏査し、現地踏査法では確認が困難な夜行性哺乳類の視認による生息種の把握を行った。</p>
鳥類	<p>現地踏査法 8～10倍の双眼鏡を持ち調査地域内を踏査し、鳥類を視認及び鳴き声の確認による生息種の把握を行った。</p> <p>ラインセンサス法 8～10倍の双眼鏡を持ち調査地域内の基本踏査ルートを一定速度で踏査し、調査者周辺50m圏内に出現（鳴き声を含む）した鳥類の種名及び個体数を記録した。</p> <p>定点観察法 20～60倍の望遠鏡及び8～10倍の双眼鏡を用いて、調査地域内の見通しの良い定点（鹿ノ子池堤防）より観察を行い、鳥類を視認及び鳴き声の確認による生息種の把握を行った。</p>
両生類・ は虫類	<p>現地踏査法 調査地域内を踏査し、鳴き声、卵塊、幼生、生体及び死体の確認による生息種の把握を行った。</p>
魚類	<p>任意採集法 鹿ノ子池、土居川、西土井川の計3地点において、任意にタモ網及び投網による捕獲を行った（水路幅・水量などに応じ、実施可能な手法で実施）。</p> <p>トラップ法 鹿ノ子池、土居川、西土井川の計3地点において、餌を入れたセル瓶を一定時間沈め、魚類を捕獲した（土居川、西土井川については、水量の十分な夏季のみ実施した）。</p>

表 5.8.1-1 (2) 現地調査手法

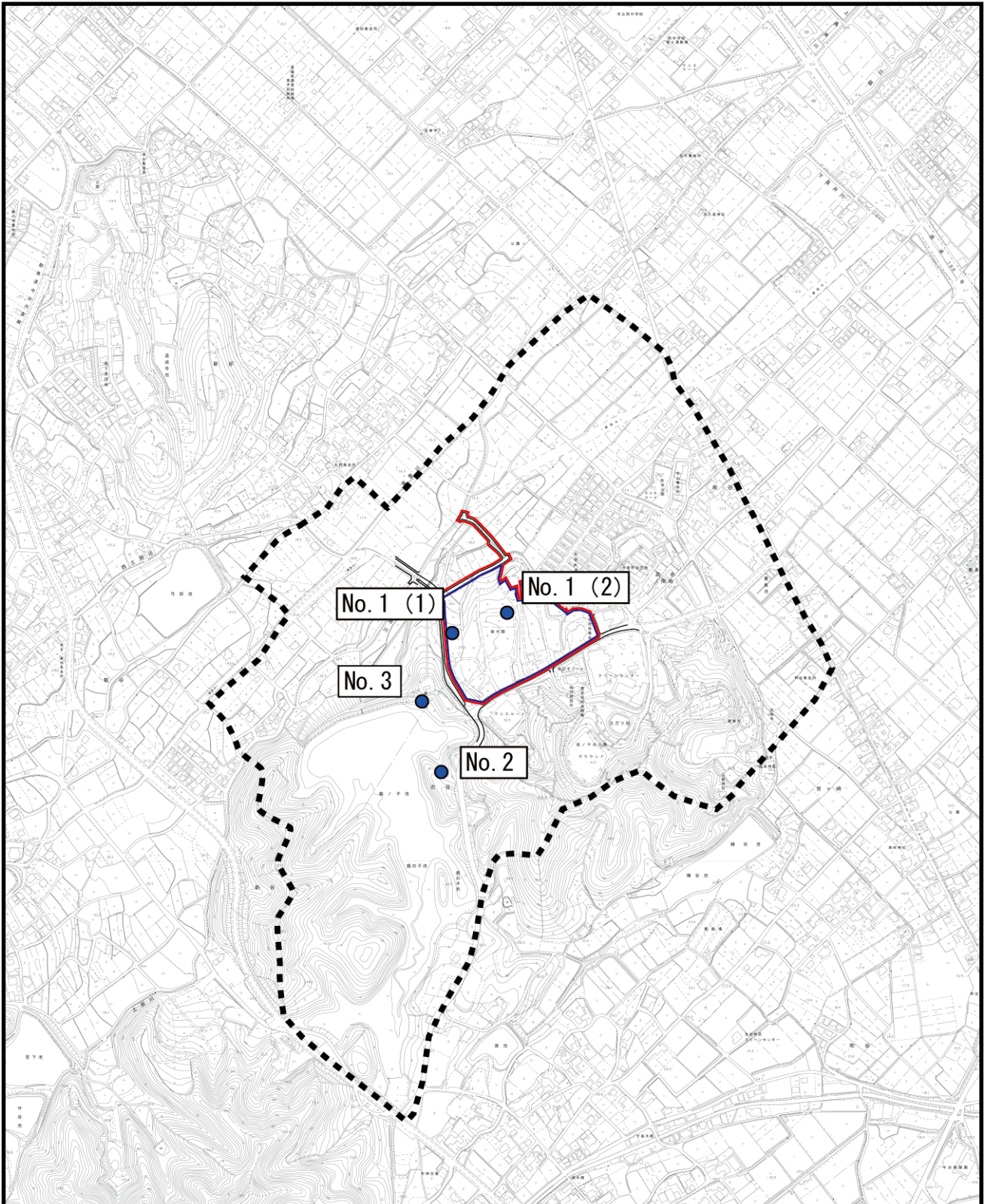
項目	調査手法
底生動物	<p>任意採集法 鹿ノ子池、土居川、西土井川の計 3 地点において、河床の石の下、水生植物の根元等で任意に主にタモ網を使った捕獲を行った。</p> <p>定量採取法 鹿ノ子池、土居川、西土井川の計 3 地点において、サーパーネット（塵取り方採集ネット）を用いて、一定面積の河床に生息する底生動物をもれなく採集した。</p>
陸生貝類	<p>任意採集法 調査地域内を踏査し、主に湿度の高い林内等で落葉の堆積箇所や朽木、木の洞等を確認することにより陸生貝類を任意に採集した。採取した陸生貝類の同定を行い、出現種を記録し、出現種リストを作成した。</p>
昆虫類等 (クモ類)	<p>任意採集法 調査地域内を踏査し、捕虫網、朽木崩し、石起こし等により昆虫類及びクモ類を任意に採集した。採取した昆虫類及びクモ類の同定を行い、出現種を記録し、出現種リストを作成した。</p> <p>ライトトラップ法 調査地域内の見通しの良い地点（鹿ノ子池堤防）において、蛍光灯及びブラックライト（紫外光）及び捕獲箱等からなるトラップを一晩設置し（ボックス法）、光に誘引された昆虫類を捕獲、同定を行った。</p> <p>ベイトトラップ法 主に歩行昆虫（ゴミムシ類等）を対象とし、餌を入れたプラスチックカップを上端が地面と同じ高さによるよう一晩設置し、落下した昆虫を捕獲、同定を行った。</p>
猛禽類 ※	<p>定点観察法 20～60 倍の望遠鏡及び 8～10 倍の双眼鏡を用いて、調査地域内の見通しの良い定点（3 箇所）より観察を行い、猛禽類（個体数の多いトビを除くタカ類及びハヤブサ類）の出現状況を確認するとともに繁殖状況及び繁殖場所の把握に努めた。</p>

※猛禽類調査における「行動圏調査法」は、対象事業実施区域周辺で営巣が確認されなかったことから、専門家の技術的助言により実施しなかった。その内容は後述する。

### 1.3. 調査地域・地点

調査地域は、対象事業実施区域及び周辺地域の土地利用状況等を考慮して、対象事業実施区域から 250m の範囲を基本として、その他、土地利用や環境区分に応じて広げた範囲とした。調査地点は、対象事業実施区域及び周辺とした。魚類及び底生動物については対象事業実施区域周辺の河川、池沼とした（図 5.8.1-4、図 5.8.1-5 参照）。

また、猛禽類については、対象事業実施区域を中心として、半径約 1km 圏内程度とした。定点観察法については、1 回あたり 3 地点を配置したが、視野状況や猛禽類の出現状況に合わせて、現地で適宜有効な地点に変更して対応した（図 5.8.1-8 参照）。



凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 都市計画対象事業実施区域
- : 調査地域

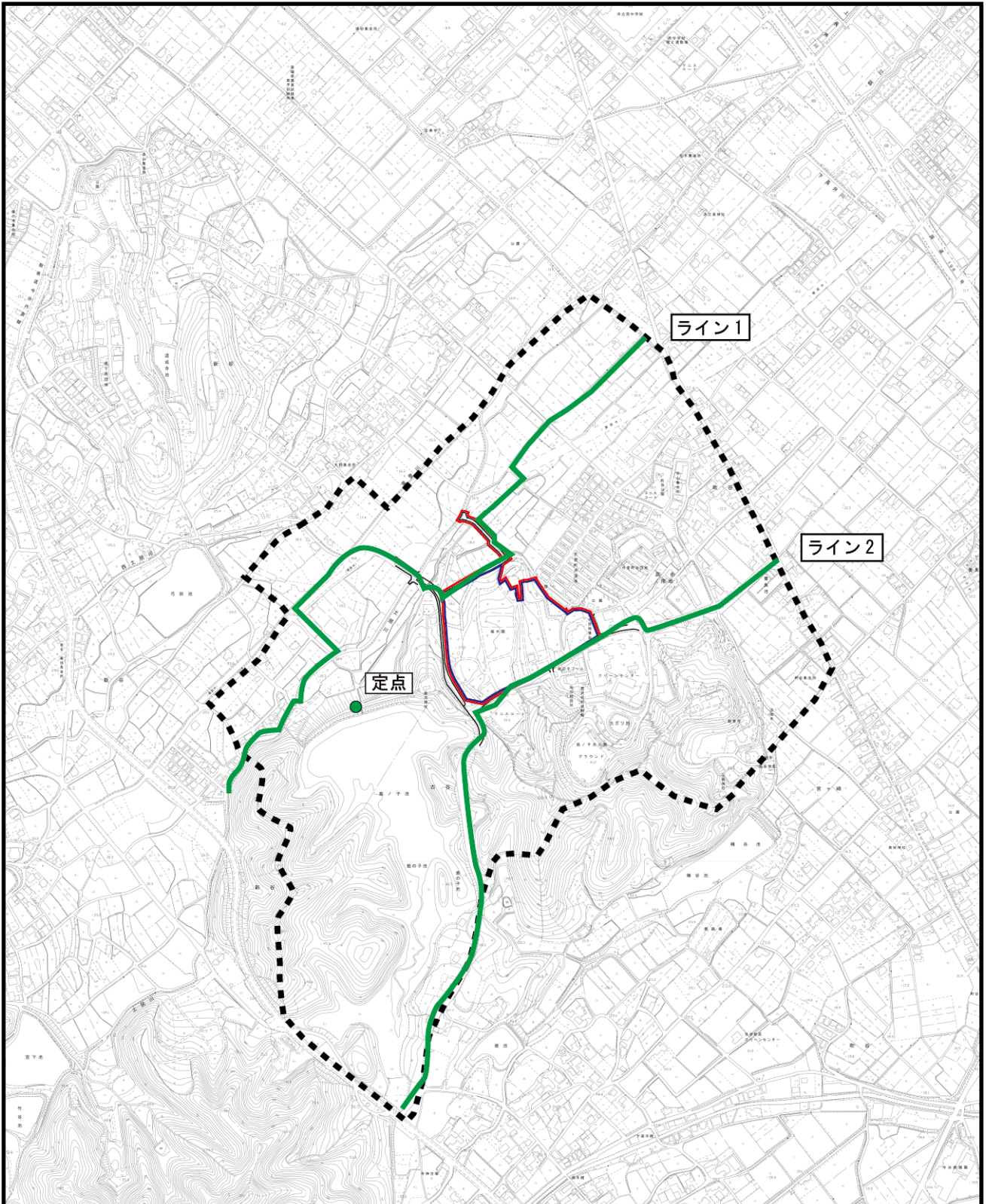
- : トラップ法調査地点 (3 地点)  
(トラップ法の地点 No. 1 は、トラップ数を半数ずつ  
2 箇所に分けて実施した。)

※現地踏査法、夜間踏査法による調査は調査範囲内で実施した。

図 5.8.1-1 調査地点位置図 (哺乳類)



1:10,000  
0 250 500m

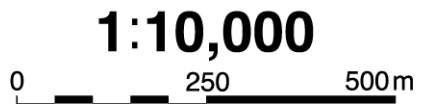


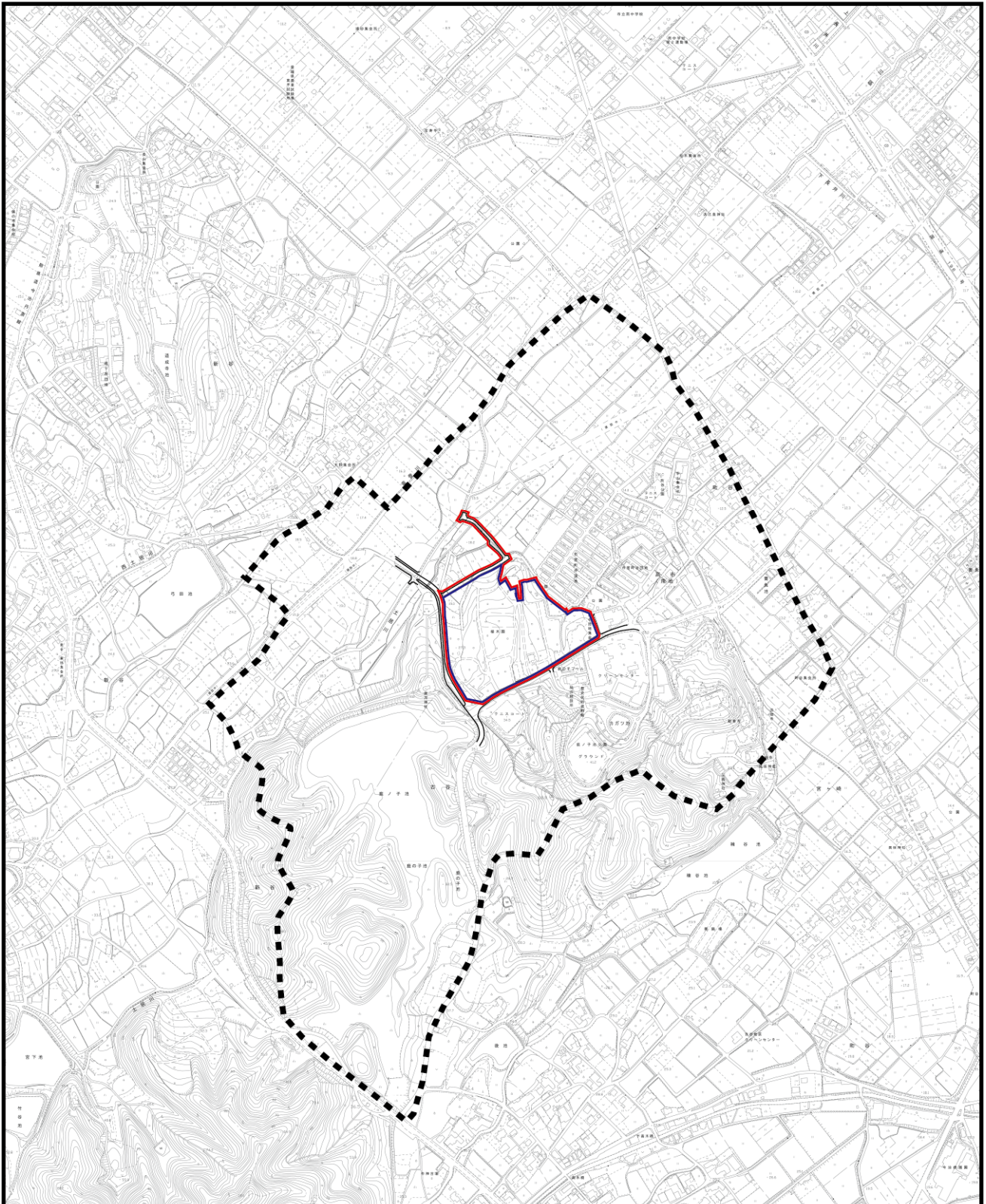
凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 都市計画対象事業実施区域
- : 調査地域
- : ラインセンサスルート (2ルート)
- : 定点観察地点 (1地点)

図 5.8.1-2 調査地点位置図 (鳥類)

※現地踏査法による調査は調査範囲内で実施した。





凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 都市計画対象事業実施区域
- : 調査地域

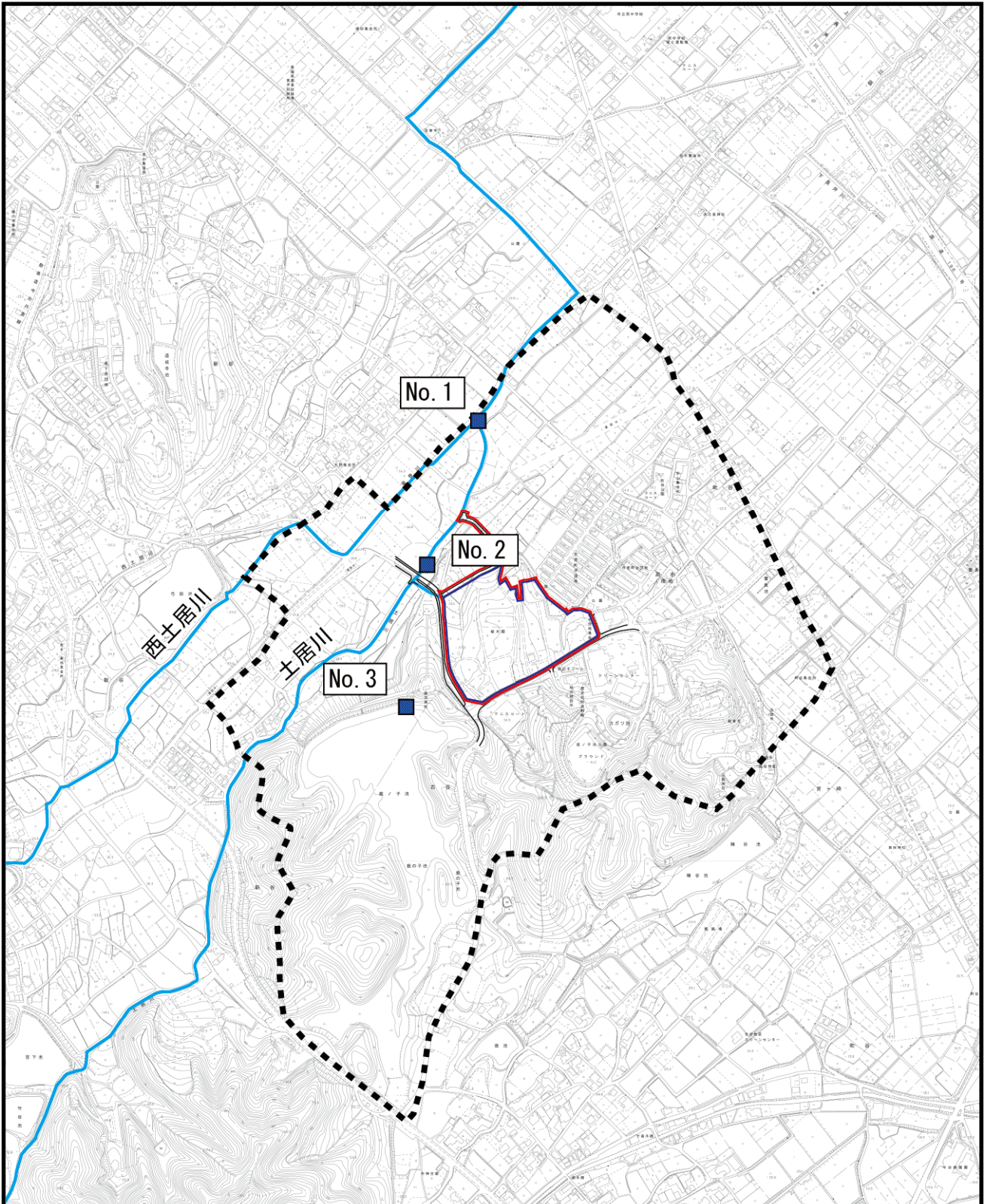
図 5.8.1-3 調査地点位置図（両生類・は虫類）

※現地踏査法による調査は調査範囲内で実施した。



**1:10,000**

0 250 500m



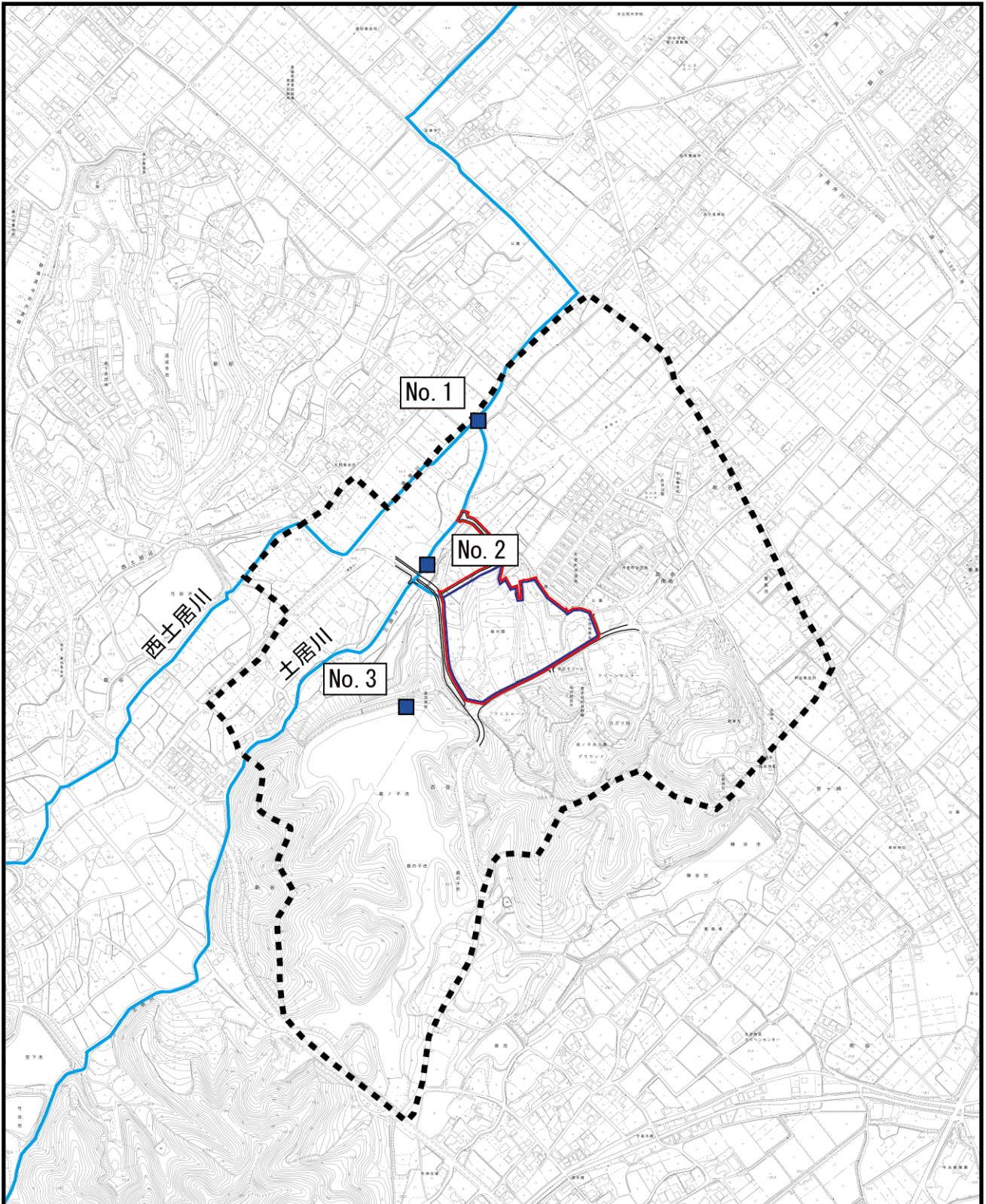
凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 都市計画対象事業実施区域
- : 調査地域
- : 任意採集法、トラップ法調査地点 (3 地点)

図 5.8.1-4 調査地点位置図 (魚類)



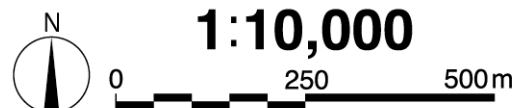
1:10,000  
0 250 500m

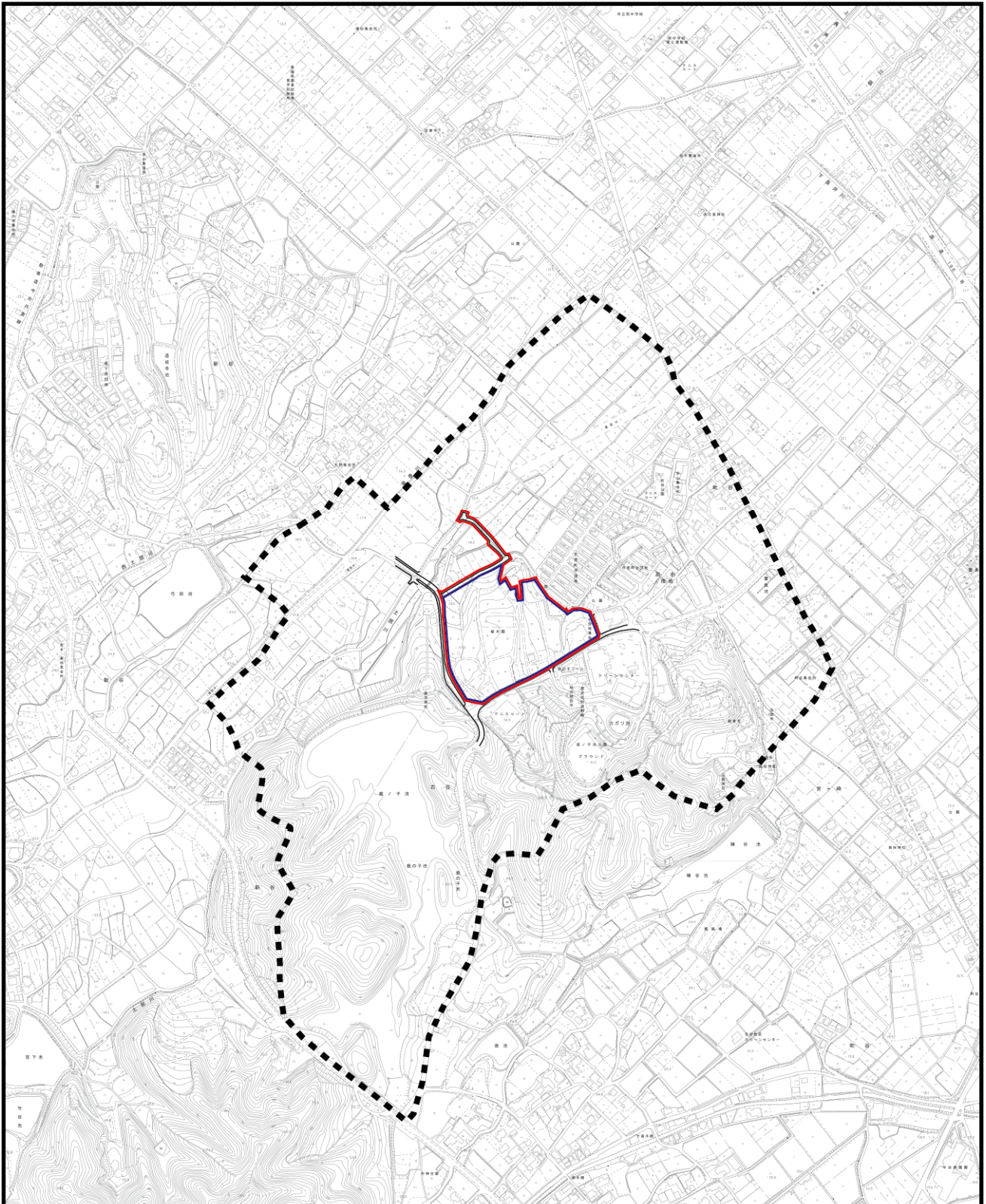


凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 都市計画対象事業実施区域
- : 調査地域
- : 任意採集法、定量採集法調査地点 (3 地点)

図 5. 8. 1-5 調査地点位置図 (底生動物)





凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 都市計画対象事業実施区域
- : 調査地域

図 5.8.1-6 調査地点位置図（陸生貝類）

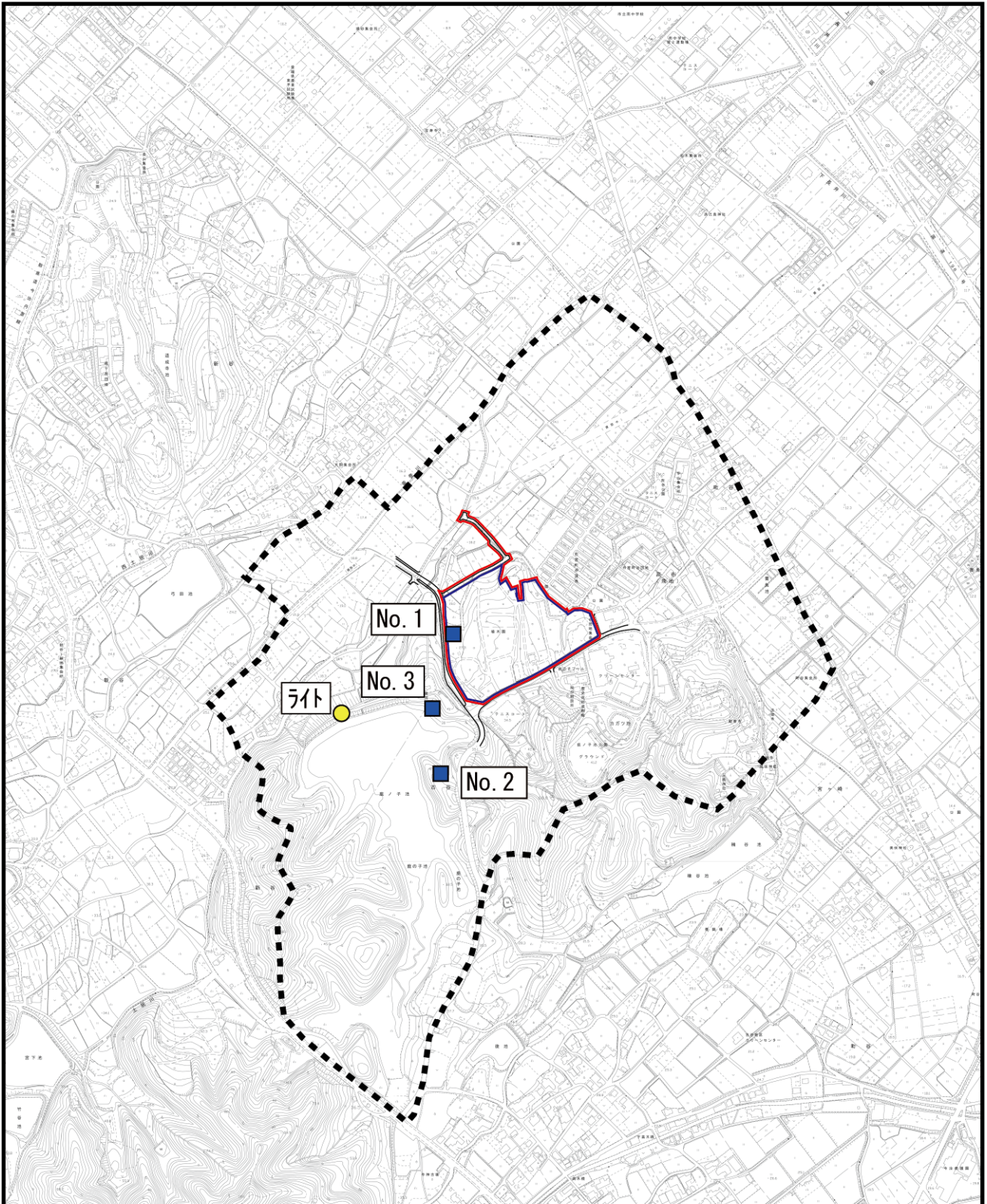


1:10,000

0 250 500m

※任意採集法による調査は調査範囲内で実施した。





凡 例

図 5.8.1-7 調査地点位置図 (昆虫類等 (クモ類))

- : 対象事業実施区域
- : 都市計画対象事業実施区域
- : 調査地域
- : ベイトトラップ法調査地点 (3 地点)
- : ライトトラップ法調査地点 (1 地点)



1:10,000

0 250 500m

※現地踏査法による調査は調査範囲内で実施した。

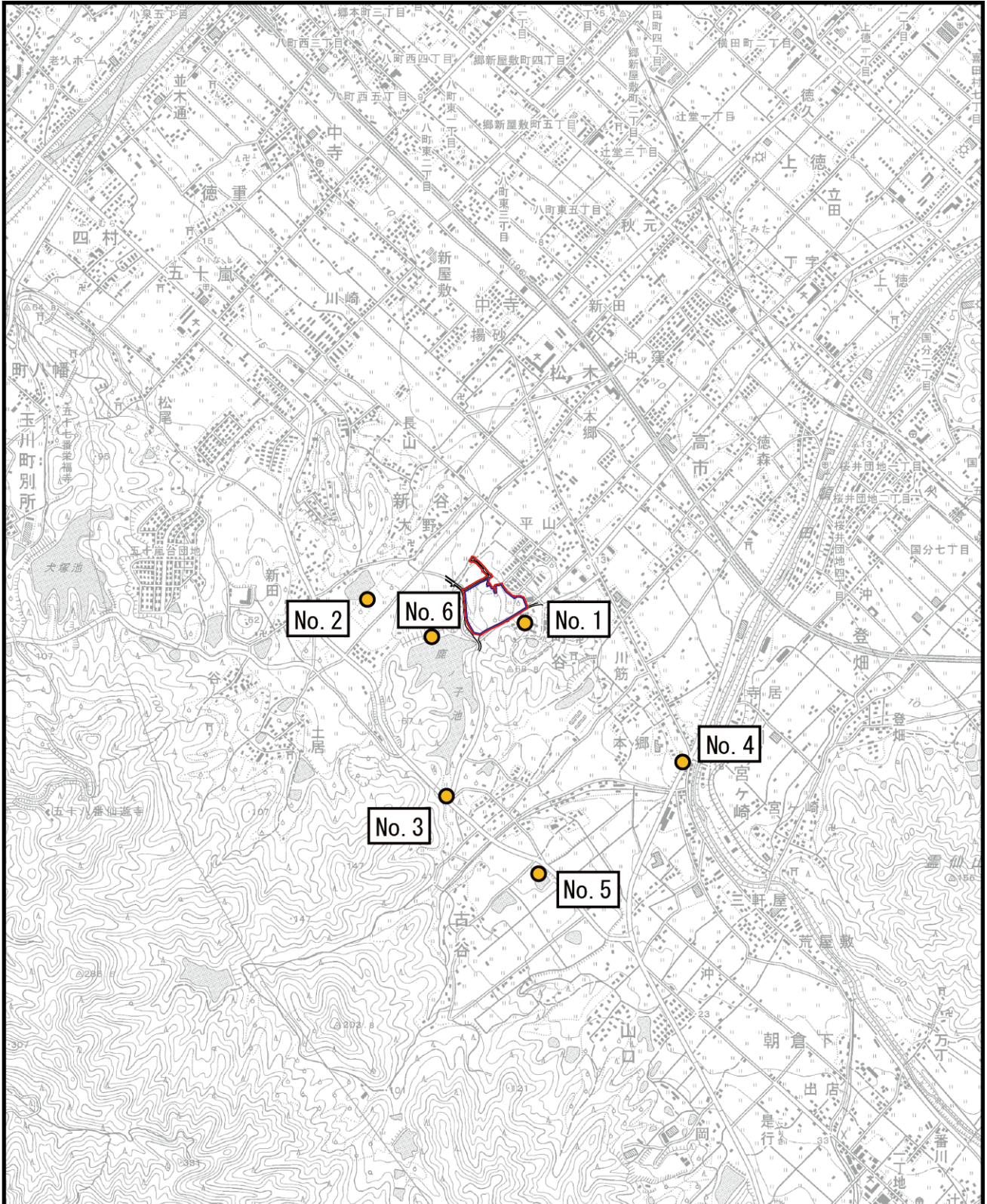


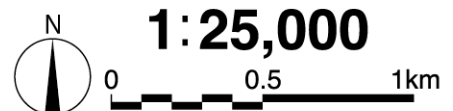
図 5.8.1-8 調査地点位置図 (猛禽類)

凡 例

: 対象事業実施区域

: 都市計画対象事業実施区域

● : 調査地点  
 (6地点の中から、猛禽類の出現状況等により  
 3地点を選んで実施した)



#### 1.4. 調査期間

現地調査は、各調査項目ごとの生態特性を踏まえ季節を定めた。現地調査実施日は表 5.8.1-2 に示すとおりである。

表 5.8.1-2 調査期間及び実施日

項目	調査実施日
哺乳類	冬 季 : 平成 24 年 2 月 14 日～15 日 春 季 : 平成 24 年 5 月 21 日～23 日 夏 季 : 平成 24 年 7 月 28 日～30 日 秋 季 : 平成 24 年 10 月 29 日～31 日
鳥類	冬 季 : 平成 24 年 2 月 15 日 春 季 : 平成 24 年 5 月 2 日 初夏季 : 平成 24 年 6 月 18 日 秋 季 : 平成 24 年 10 月 30 日
両生類・は虫類	早春季 : 平成 24 年 3 月 9 日～10 日 春 季 : 平成 24 年 5 月 22 日 初夏季 : 平成 24 年 6 月 17 日 秋 季 : 平成 24 年 10 月 29 日
魚類	冬 季 : 平成 24 年 2 月 15 日 春 季 : 平成 24 年 5 月 23 日 夏 季 : 平成 24 年 7 月 29 日 秋 季 : 平成 24 年 10 月 29 日
底生動物	早春季 : 平成 24 年 3 月 8 日 春 季 : 平成 24 年 5 月 1 日
陸生貝類	初夏季 : 平成 24 年 6 月 18 日～19 日 秋 季 : 平成 24 年 10 月 16 日～17 日
昆虫類等 (クモ類)	春 季 : 平成 24 年 5 月 22 日～23 日 夏 季 : 平成 24 年 7 月 28 日～30 日 秋 季 : 平成 24 年 10 月 18 日～19 日
猛禽類※ (繁殖前期調査)	2月調査 : 平成 24 年 2 月 16 日～18 日 3月調査 : 平成 24 年 3 月 8 日～10 日 4月調査 : 平成 24 年 4 月 5 日～7 日 5月調査 : 平成 24 年 5 月 19 日～21 日 6月調査 : 平成 24 年 6 月 17 日～19 日

※繁殖前期調査の結果、対象事業実施区域周辺で繁殖の可能性が確認されなかったことから、専門家の技術的助言により「繁殖後期 (7,8 月 : 定点観察法)」及び「非繁殖期 (10 月 : 行動圏調査)」は実施しなかった。その内容は後述する。

## 1.5. 調査結果

### (1) 動物相の状況

#### ア. 哺乳類

現地調査の結果、表 5.8.1-3 に示す 4 目 7 科 8 種の哺乳類が確認された（資料編 3.8-2 ページ参照）。なお、Mogera 属の一種は、坑道の確認であるが種の分布からコウベモグラと考えられる。コウモリ亜科の一種は、夜間踏査で飛行する様子を観察したが種の特定には至らなかった。Mustela 属の一種は、糞での確認であり外来種のチョウセンイタチ又は在来種のニホンイタチのどちらかと考えられるが、確認環境からチョウセンイタチの可能性が高い。

調査季節別では、Mogera 属の一種及びタヌキが 1 年を通じて確認されたほか、哺乳類が活性化する春季～夏季はコウモリ亜科の一種やアカネズミが確認され、移動が活発になる夏季～秋季は中型のネコ目の哺乳類の痕跡が増加したほか、草地ではカヤネズミの球巣が確認された。

表 5.8.1-3 現地調査確認種一覧（哺乳類）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期			
					冬期	春季	夏季	秋季
1	モグラ目	モグラ科	コウベモグラ	<i>Mogera wogura</i>				○
-			Mogera属の一種 <sup>※2</sup>	<i>Mogera</i> sp.	○	○	○	○
2	コウモリ目	コウモリ科	コウモリ亜科の一種	<i>Microchiroptera</i> sp.		○	○	
3	ネズミ目	ネズミ科	アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>		○	○	
4			カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>				○
-			ネズミ科の一種 <sup>※2</sup>	<i>Muridae</i> sp.				○
5	ネコ目	アライグマ科	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>			○	
6		イヌ科	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	○	○	○	○
7		イタチ科	Mustela属の一種	<i>Mustela</i> sp.			○	○
8		ジャコウネコ科	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>				○
	4目	7科	8種	-	2種	4種	6種	5種

※1 種名及び種の並びは、「日本産哺乳類頭骨図説」（平成 12 年 北海道大学図書館刊行会）に従った。

※2 種を特定していないため種数として計上しない。



アカネズミ



Mogera 属の一種（坑道）

## イ. 鳥類（鳥類相）

現地調査の結果、表 5.8.1-4 に示す 9 目 22 科 57 種の鳥類が確認された（資料編 3.8-3 ページ参照）。

調査季節別では、冬季調査でカイツブリやキジバト、ウグイス、ホオジロ、ムクドリなど留鳥のほか、カモ類、ハイタカ、シロハラ、カシラダカなどの冬鳥が確認され、36 種が確認された。春季調査では、主に留鳥及び冬鳥の確認であったが、アカハラやビンズイなど冬季調査で確認されなかった種の中継地としての利用が示唆されたほか、ツバメやキビタキなどの夏鳥も見られ、35 種が確認された。初夏調査では、当地で繁殖していると考えられるキジバトやコゲラ、ホオジロなどの留鳥及び夏鳥が見られ 25 種が確認された。秋季調査では、確認種の多くが留鳥及び冬鳥であったが、ダイサギやクサシギ、タヒバリなどがため池（鹿ノ子池）の落水により生じた湿地環境に出現し、43 種と最も多く確認された。

表 5.8.1-4 現地調査確認種一覧（鳥類（鳥類相））

目名	科名	種名	学名	調査時期			
				冬期	春季	初夏	秋季
カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis poggei</i>	○	○	○	○
ペリカン目	ウ科	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo hanedae</i>	○	○	○	○
コウノトリ目	サギ科	ダイサギ	<i>Egretta alba</i>				○
		コサギ	<i>Egretta garzetta</i>				○
		アオサギ	<i>Ardea cinerea jouyi</i>	○	○	○	○
カモ目	カモ科	マガモ	<i>Anas platyrhynchos platyrhynchos</i>	○	○		
		カルガモ	<i>Anas poecilorhyncha zonorhyncha</i>	○			
		コガモ	<i>Anas crecca crecca</i>	○	○		○
		ハシビロガモ	<i>Anas clypeata</i>	○	○		
タカ目	タカ科	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus haliaetus</i>	○			○
		トビ	<i>Milvus migrans lineatus</i>	○	○	○	○
		オオタカ	<i>Accipiter gentilis fujiyamae</i>	○		○	
		ツミ	<i>Accipiter gularis</i>				○
		ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	○			○
		ノスリ	<i>Buteo buteo</i>				○
	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>				○
キジ目	キジ科	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracica</i>		○	○	○
		キジ	<i>Phasianus colchicus</i>				○
ツル目	クイナ科	バン	<i>Gallinula chloropus indica</i>	○	○		
		オオバン	<i>Fulica atra atra</i>	○			
チドリ目	チドリ科	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>				○
	シギ科	クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>				○
ハト目	ハト科	キジバト	<i>Streptopelia orientalis orientalis</i>	○	○	○	○
		ドバト	<i>Columba livia</i>		○		
フクロウ目	フクロウ科	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>		○		
ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>				○
キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	○	○	○	○
		アオゲラ	<i>Picus awokera</i>		○		
スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>		○	○	○
	ツバメ科	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>		○	○	○
		イワツバメ	<i>Delichon urbica</i>				○
		セキレイ科	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea robusta</i>	○		
		ハクセキレイ	<i>Motacilla alba lugens</i>	○	○	○	○
		セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	○	○	○	○
		ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>		○		○
		タヒバリ	<i>Anthus spinoletta</i>				○
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis amaurotis</i>	○	○	○	○
	モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus bucephalus</i>	○	○	○	○
	ツグミ科	ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>				○
		ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus aureus</i>	○			○
		シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	○			○
		アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>		○		
		ツグミ	<i>Turdus naumanni eunomus</i>	○			○
	ウグイス科	ウグイス	<i>Cettia diphone cantns</i>	○	○	○	○
	ヒタキ科	キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>		○	○	
	エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus trivirgatus</i>	○	○		
	シジュウカラ科	ヤマガラ	<i>Parus varius varius</i>	○	○	○	○
		シジュウカラ	<i>Parus major major</i>	○	○	○	○
	メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonica japonica</i>	○	○	○	○
	ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides cioides</i>	○	○	○	○
		カシラダカ	<i>Emberiza rustica latifascia</i>	○			
		アオジ	<i>Emberiza spodocephala personata</i>	○	○		
	アトリ科	カワラヒワ	<i>Carduelis sinica</i>	○	○	○	○
	ハタオリドリ科	スズメ	<i>Passer montanus saturatus</i>	○	○	○	○
	ムクドリ科	ムクドリ	<i>Sturnus cineraceus</i>	○	○	○	○
カラス科	ハシボソガラス	<i>Corvus corone orientalis</i>	○	○	○	○	
	ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos japonensis</i>	○	○	○	○	
9目	22科	57種	—	36種	35種	25種	43種

※1 種名及び種の並びは、「日本鳥類目録第6版」（平成12年 日本鳥学会）に従った。

## ウ. 両生類・は虫類

現地調査の結果、表 5.8.1-5 及び表 5.8.1-6 に示す 2 目 4 科 7 種の両生類、2 目 7 科 10 種のは虫類が確認された（資料編 3.8-5 ページ参照）。

両生類の調査季節別では、早春季調査でアカハライモリの成体やニホンアカガエルの卵塊など 3 種が確認された。春季調査では、カエル類が活発で 5 種の成体及び鳴き声等が確認された。初夏には山地性のタゴガエルが加わり 6 種が確認された。秋季調査では、カエル類の不活化し、個体数の多いニホンアマガエルやヌマガエルなど 3 種の確認にとどまった。

は虫類の調査季節別では、早春季調査で年中活動するカナヘビのみ 1 種が確認された。春季以降の調査では、カメ類、トカゲ類、ヘビ類などが活発な時期であり、5 種～7 種が確認されたが、カメ類及びヘビ類は個体数が少なく、確認種は調査期ごとに異なっていた。

表 5.8.1-5 現地調査確認種一覧（両生類）

目名	科名	種名	学名	確認時期			
				早春季	春季	初夏	秋季
サンショウウオ目	イモリ科	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	○		○	
カエル目	アマガエル科	ニホンアマガエル	<i>Hyla japonica</i>		○	○	○
	アカガエル科	ウシガエル	<i>Rana catesbeiana</i>		○	○	○
		タゴガエル	<i>Rana tagoi</i>			○	
		ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i>	○	○	○	
		ヌマガエル	<i>Fejervarya limnocharis</i>	○	○	○	○
アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	<i>Rhacophorus schlegelii</i>		○			
2目	4科	7種	—	3種	5種	6種	3種

※1 種名及び種の並びは、「爬虫類両棲類学会報 第 2003 巻 第 1 号」（平成 15 年、日本爬虫類両棲類学会）に従った。

表 5.8.1-6 現地調査確認種一覧（は虫類）

目名	科名	種名	学名	確認時期			
				早春季	春季	初夏	秋季
カメ目	ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i>			○	
	イシガメ科	クサガメ	<i>Chinemys reevesii</i>		○		○
トカゲ目	ヤモリ科	ニホンヤモリ	<i>Gekko japonicus</i>		○	○	
	トカゲ科	ニホントカゲ	<i>Plestiodon japonicus</i>		○	○	○
	カナヘビ科	カナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>	○	○	○	○
	ナミヘビ科	ヒバカリ	<i>Amphiesma vibakari</i>				○
		アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>		○		○
		シロマダラ	<i>Dinodon orientale</i>		○		
ヤマカガシ		<i>Rhabdophis tigrinus</i>		○	○	○	
クサリヘビ科	ニホンマムシ	<i>Gloydius blomhoffii</i>				○	
2目	7科	10種	—	1種	7種	5種	7種

※1 種名及び種の並びは、「爬虫類両棲類学会報 第 2003 巻 第 1 号」（平成 15 年、日本爬虫類両棲類学会）に従った。



ミシシippアカミミガメ



ニホンヤモリ

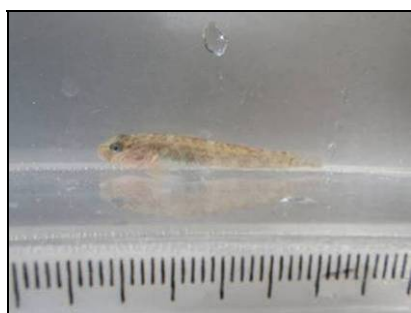
## エ. 魚類

現地調査の結果、表 5.8.1-7 に示す 3 目 5 科 6 種の魚類が確認された（資料編 3.8-6 ページ参照）。なお、ヨシノボリ属の一種は、胸鰭基部の黒点等不明瞭な部分があること、小型の個体が多かったことなどから種の同定には至らなかったが、背鰭、胸鰭の軟条数などから、カワヨシノボリの可能性が高いと考えられる。

表 5.8.1-7 現地調査確認種一覧（魚類）

目名	科名	種名	学名	確認時期			
				冬季	春季	夏季	秋季
コイ目	コイ科	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>	○	○	○	○
	ドジョウ科	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	○	○	○	○
ダツ目	メダカ科	メダカ南日本集団	<i>Oryzias latipes latipes</i>				○
スズキ目	サンフィッシュ科	オオクチバス	<i>Micropterus salmoides</i>		○	○	○
		ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus</i>	○	○	○	○
	ハゼ科	ヨシノボリ属の一種	<i>Rhinogobius</i> sp.	○		○	○
3目	5科	6種	—	4種	4種	5種	6種

※1 種名及び種名の配列は、原則として財団法人リバーフロント整備センター（2010）「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成 22 年度）」に従った。



ヨシノボリ属の一種



オオクチバス



## オ. 底生動物

現地調査の結果、表 5.8.1-8 に示す 5 門 8 綱 21 目 38 科 71 種の底生動物が確認された。確認種リストは資料編に示す（資料編 3.8-7 ページ参照）。

分類別では、渦虫綱はプラナリアの仲間で 1 種が、紐形動物門は海産種の多い紐型の生物で 1 種が確認された。軟体動物門では、腹足綱は巻貝の仲間では 3 目 6 科 8 種が、二枚貝綱は 1 目 1 科 1 種が確認された。環形動物門では、ミミズ綱は 3 目 3 科 5 種が、ヒル綱は 2 目 2 科 2 種が確認された。節足動物門では、軟甲綱はエビやヨコエビなどの仲間では 3 目 3 科 3 種が、昆虫綱はトンボやユスリカの幼虫及び水生のカメムシや甲虫類等 7 目 21 科 50 種が確認された。

表 5.8.1-8 現地調査確認状況（底生動物）

門名	綱名	目名	種数	確認種
扁形動物門	渦虫綱	三岐腸目	1 科 1 種	三岐腸目
紐形動物門	—	—	1 科 1 種	紐形動物門
軟体動物門	腹足綱	原始紐舌目	1 科 1 種	ヒメタニシ
		盤足目	2 科 2 種	カワニナ、ウスイロオカチグサガイ
		基眼目	3 科 5 種	ヒメモノアラガイ、サカマキガイ等
	二枚貝綱	マルスダレガイ目	1 科 1 種	シジミ属
環形動物門	ミミズ綱	オヨギミミズ目	1 科 1 種	オヨギミミズ科
		イトミミズ目	1 科 3 種	ユリミミズ、ミズミミズ属、クロオビミズミミズ
		ツリミミズ目	1 科 1 種	フトミミズ科
	ヒル綱	吻蛭目	1 科 1 種	ハバヒロビル
		無吻蛭目	1 科 1 種	ナマイシビル
節足動物門	軟甲綱	ヨコエビ目	1 科 1 種	ニッポンヨコエビ
		ワラジムシ目	1 科 1 種	ミズムシ
		エビ目	1 科 1 種	スジエビ
	昆虫綱	カゲロウ目	1 科 5 種	サホコカゲロウ、Hコカゲロウ等
		トンボ目	3 科 4 種	クロイトトンボ属、ギンヤンマ等
		カワゲラ目	1 科 1 種	オナシカワゲラ属
		カメムシ目	4 科 4 種	コオイムシ、ヒメミズカマキリ、マルミズムシ等
		トビケラ目	7 科 7 種	ニンギョウトビケラ、ホソバトビケラ等
		ハエ目	2 科 23 種	ガガンボ属、ユスリカ属、ナガレユスリカ属等
		コウチュウ目	3 科 6 種	キイロコガシラミズムシ、ヒメガムシ等
5 門	8 綱	21 目	38 科 71 種	—

## カ. 陸生貝類

現地調査の結果、表 5.8.1-9 に示す 2 目 9 科 21 種の陸生貝類が確認された(資料編 3.8-9 ページ参照)。

調査季節別では、初夏調査で 2 目 9 科 17 種が、秋季調査で 2 目 7 科 17 種が確認された。微細な種や個体数の少ない種以外では調査季節によらずほぼ同様の確認状況であった。

表 5.8.1-9 現地調査確認状況 (陸生貝類)

No.	目名	科名	和名	学名	調査時期		
					初夏	秋季	
1	盤足目	カワザンショウガイ科	ウスイロオカチグサガイ	<i>Paludinassiminea debilis</i>	○		
2	柄眼目	オカモノアラガイ科	ヒメオカモノアラガイ	<i>Succinea lyrata</i>	○		
3		オカチョウジガイ科	オカチョウジガイ	<i>Allopeas clavulinum kyotoense</i>	○	○	
4		ナタネガイ科	Punctum属の一種	<i>Punctum sp.</i>	○	○	
5		ナメクジ科	ナメクジ	<i>Meghimatium bilineatum</i>	○	○	
6			ヤマナメクジ	<i>Meghimatium fruhstorferi</i>		○	
7		コウラナメクジ科	ノナメクジ	<i>Deroceras varians</i>	○		
8			チャコウラナメクジ	<i>Lehmannia valentiana</i>		○	
9		ベッコウマイマイ科	ヒメベッコウガイ	<i>Discoconulus sinapidium</i>		○	
10			キビガイ	<i>Gastrodontella multivolvis</i>	○	○	
11			ウスイロシタラガイ	<i>Parasitala pallida</i>		○	
12			コシタカシタラガイ	<i>Sitalina circumcincta</i>	○	○	
13			ウメムラシタラガイ	<i>Sitalina japonica</i>	○	○	
14			ヒメカサキビ	<i>Trochochlamys subcrenulata subcrenulata</i>	○	○	
15			オオクラヒメベッコウ	<i>Yamatochlamys lampra</i>	○		
16			ニッポンマイマイ科	ニッポンマイマイ	<i>Satsuma japonica japonica</i>	○	○
17				コベソマイマイ	<i>Satsuma myomphala myomphala</i>	○	○
18		オナジマイマイ科	ウスカワマイマイ	<i>Acusta despecta sieboldiana</i>	○	○	
19			コウベマイマイ	<i>Aegista kobensis kobensis</i>	○	○	
-			Aegista属の一種 <sup>※2</sup>	<i>Aegista sp.</i>	○		
20			セトウチマイマイ	<i>Euhadra subnimbosa</i>	○	○	
21			アワジオトメマイマイ	<i>Trishoplita awajiensis</i>	○		
-	Trishoplita属の一種 <sup>※2</sup>	<i>Trishoplita sp.</i>		○			
	2目	9科	21種	—	17種	17種	

※1 種名及び種の並びは、「日本産野生生物目録」(平成 10 年, 環境省)に従った。

※2 種を特定していないため種数として計上しない。



オカチョウジガイ



セトウチマイマイ

キ. 昆虫類等

現地調査の結果、表 5.8.1-10 に示す 15 目 136 科 425 種の昆虫類及び 1 目 16 科 51 種のクモ類が確認された。

調査時期別、調査内容別の確認種数は表 5.8.1-11 に示すとおりであり、確認種リストは資料編に示す（資料編 3.8-10 ページ参照）。

表 5.8.1-10 現地調査確認状況（昆虫類等）

綱	目名	種数	確認種
昆虫綱	イシノミ目	1 科 1 種	イシノミ科の一種
	トンボ目	8 科 29 種	クロイトトンボ、ギンヤンマ、ナツアカネ等
	カワゲラ目	1 科 1 種	Nemoura 属の一種
	ゴキブリ目	1 科 2 種	モリチャバネゴキブリ、ウスヒラタゴキブリ
	カマキリ目	1 科 3 種	ハラビロカマキリ、チョウセンカマキリ、オオカマキリ
	シロアリ目	1 科 1 種	ヤマトシロアリ
	バッタ目	11 科 28 種	ケラ、マダラスズ、ササキリ、クルマバッタ等
	ナナフシ目	1 科 1 種	エダナナフシ
	ハサミムシ目	1 科 2 種	ハマベハサミムシ、ヒゲジロハサミムシ
	カメムシ目	24 科 62 種	アオバハゴロモ、アブラゼミ、ヨコヅナサシガメ、マルカメムシ等
	コウチュウ目	30 科 140 種	マイマイカブリ、ミイデラゴミムシ、オオヒラタシデムシ、ノコギリクワガタ、キマワリ、ヨモギハムシ等
	ハチ目	16 科 49 種	ヤマトアシナガアリ、アミメアリ、スズバチ、キボシアシナガバチ、オオスズメバチ、ニホンミツバチ等
	シリアゲムシ目	1 科 1 種	ヤマトシリアゲ
	ハエ目	21 科 37 種	ベッコウガガンボ、クロバネツリアブ、アオメアブ、オオハナアブ、オオクロバエ、ナミニクバエ等
チョウ目	18 科 68 種	セスジノメイガ、ヒメアカシマメイガ、イチモンジセセリ、ムラサキツバメ、キシタホソバ、フタオビコヤガ等	
	15 目	136 科 425 種	—
クモ綱	クモ目	16 科 51 種	オオヒメグモ、ユノハマサラグモ、ジョロウグモ、アシナガグモ、コアシダカグモ、ハナグモ、ウデブトハエトリ等
2 綱	16 目	152 科 476 種	—

表 5.8.1-11 昆虫類等確認種数（調査時期別、調査内容別）

調査内容	昆虫綱				クモ綱				
	調査時期			全期	調査時期			全期	
	春季	夏季	秋季		春季	夏季	秋季		
任意採集	181	186	128	376	21	21	28	47	
ベイト トラップ	No.1	10	13	10	45	3	0	2	10
	No.2	8	10	13		3	3	0	
	No.3	14	15	15		2	0	0	
ライトトフツブ	12	27	8	45	—	—	—	—	
全体	203	220	149	425	27	24	28	51	

※表内の数字は確認種数を示す。